



境界型糖尿病が認知症およびアルツハイマー病の危険率に及ぼす影響

KEYWORDS// 境界型糖尿病, 認知症, アルツハイマー病

多くの研究が糖尿病と認知の低下および認知症との関係を明らかにしたが, 糖尿病と認知症のアルツハイマー病型との関係については論争中である. 著者らは境界型糖尿病が認知症およびアルツハイマー病の危険率を高めるという仮説を立証するために, 75 歳以上で認知症および糖尿病のない 1,173 人の長期的な Community-based cohort により認知症およびアルツハイマー病の発症状況について調査した. 境界型糖尿病は随時血漿グルコース濃度が $7.8 \sim 11.0 \text{ mmol/l}$ のものとし, データは Cox proportional hazards models で解析した. 9 年間の追跡中にアルツハイマー病 307 人を含む 397 人が認知症を発症した. 47 人は境界型

糖尿病と同定され, 境界型糖尿病は認知症およびアルツハイマー病の adjusted hazard ratio と関係していた. 層別分析では APOE ϵ 4 対立形質の非保有者間だけに境界型糖尿病とアルツハイマー病との強い関係が示唆された. 境界型糖尿病と重度の収縮期高血圧間の相互作用がアルツハイマー病の危険率に影響していた. 境界型糖尿病は認知症とアルツハイマー病の危険率の増加と関係していた.

(Xu W, Qiu C, Winblad B, et al : The effect of borderline diabetes on the risk of dementia and Alzheimer's disease. Diabetes 56 : 211-216, 2007)

(埼玉県立大学短期大学部 鈴木優治)